

# 4

## 地域別計画

東青地域	104
中南地域	112
三八地域	120
西北地域	128
上北地域	136
下北地域	144

県では、県内に6つの地域県民局を設置し、広域的な観点から、地域資源を活用した地域づくりの推進や人材の育成、移住・定住対策などについて、市町村とともに取り組んでいます。

今後、人口減少と高齢化の進行が見込まれる中、多様化する住民ニーズの全てに単独で対応することが困難な市町村が現れてくることが懸念されています。

また、各市町村が人口減少の克服に取り組むに当たっては、地域の特性を生かしながら、県内の市町村間での人口の奪い合いではなく、県外からいかにして人を呼び込むか、という視点を持ってチャレンジしていくことが重要です。

地域別計画は、圏域内の各市町村が持つ資源を相互に活用し、足りない部分は補い合い、圏域内の連携を図り、地域一体となって、自立した地域づくりを進めていくために策定するものです。

### 地域別計画について

地域別計画は、県内に設置されている6つの地域県民局（東青・中南・三八・西北・上北・下北）の圏域ごとに、全県的な動向や政策の方向性と各地域が置かれている状況や地域の特性を踏まえ、2030年における地域のめざす姿を掲げ、その実現に向けた取組の方向性を定めています。

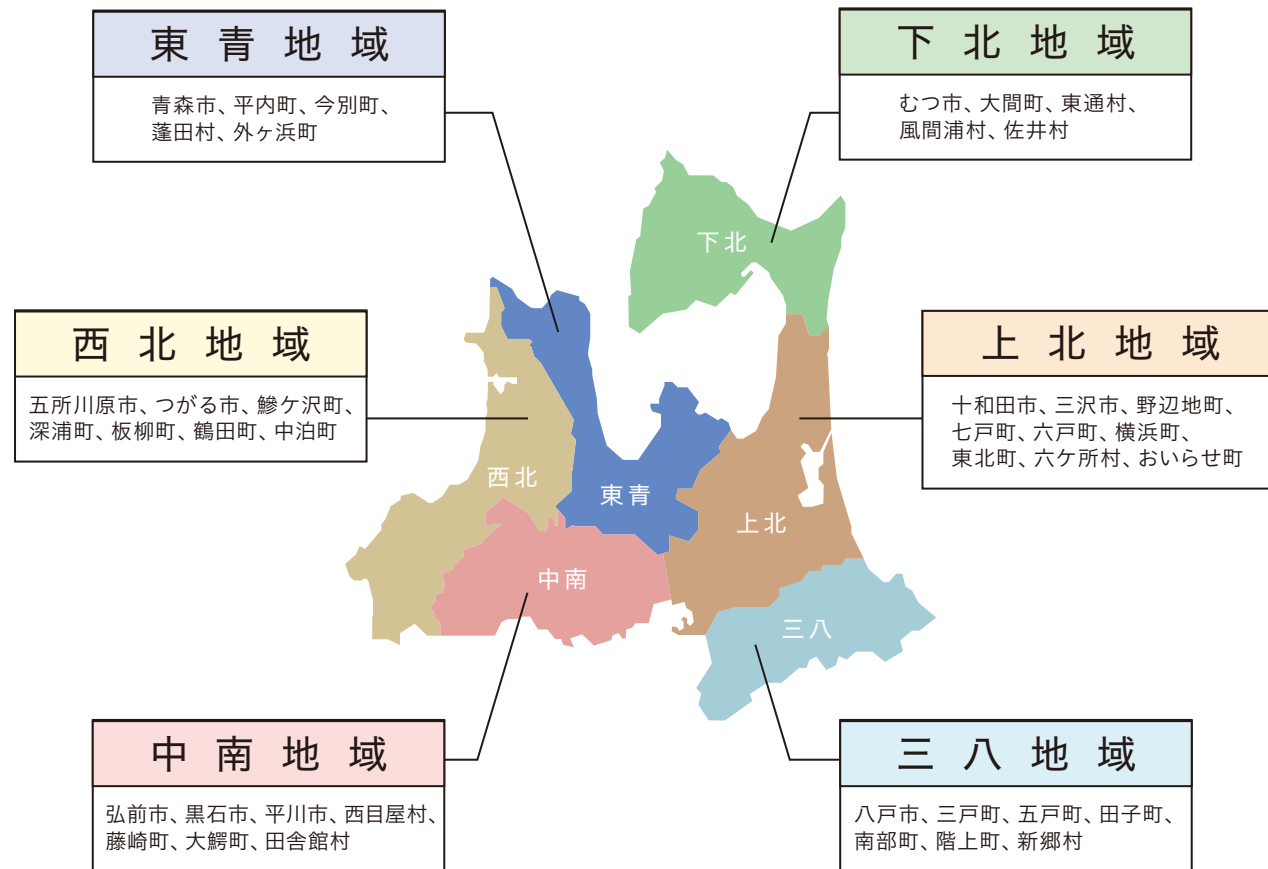
また、「生業(なりわい)」づくりと「生活」の視点を重視し、地域の自立への道筋を示しています。

### 地域別計画の構成

- (1) 2030年における地域のめざす姿  
地域全体としてめざす姿を記載しています。
- (2) 地域の概要・特性と課題 ～めざす姿の背景～  
めざす姿の背景となる地理的特性や特徴、人口や産業の状況等を分析しています。
- (3) 取組の基本方針と主な取組  
計画期間内に地域全体が重点的に取り組む内容を記載しています。

### 地域間の連携

実際の経済活動や住民生活は、地域を越えて広域にわたっていることから、地域別計画の推進に当たっては、他の圏域や近隣道県等とも相互に連携しながら取組を進めていきます。



## 地域別計画の概要

### とうせい 東青地域

#### 2030年のめざす姿

- 「食」産業の充実・強化
- 着地型観光の起点機能の確立
- 優れた生活・仕事環境を生かした産業の集積
- 共に支え合い安心して老後を迎えることができる地域社会

#### 今後5年間の取組の基本方針

1. 安全・安心で優れた農林水産物の産地づくり
2. 地域資源の高付加価値化と販売の促進
3. 地域の魅力づくりと広域観光の推進
4. 一人ひとりが健康でいつまでも住み続けられる地域づくり

### ちゅうなん 中南地域

#### 2030年のめざす姿

- 先端技術を導入した高付加価値農業の先進地
- 優れた「人材力」を誇るものづくりの地
- 多彩な観光資源を活用した感動劇場
- 誰もが支え合い健康に暮らせる地域

#### 今後5年間の取組の基本方針

1. 労働生産性の向上や6次産業化による稼げる農林業の推進
2. ものづくり産業を支える人材力の強化
3. 感動の舞台づくり
4. 誰もが支え合い安心して暮らしていける地域社会づくり

### さんぱち 三八地域

#### 2030年のめざす姿

- 元気なものづくり産業の集積とエネルギー・リサイクルの進んだ地域
- 力強い経営体が地域を支える農山漁村
- 国内外から選ばれる、行ってみたい観光地
- 健康、長寿で、生き生きと安心して暮らせる地域

#### 今後5年間の取組の基本方針

1. ものづくり産業の活性化とエネルギー関連産業の振興
2. 農林水産資源の高付加価値化と人材・経営体の育成
3. 広域観光の更なる推進
4. 健康、長寿で、生き生きと安心して暮らせる地域づくり

### せいほく 西北地域

#### 2030年のめざす姿

- たくましい農林水産業
- 「シンカ」し続ける観光産業
- 地域ぐるみで健康づくり
- 暮らしやすい社会

#### 今後5年間の取組の基本方針

1. ブランド力アップで稼ぐ農林水産業の推進
2. チャンスを生かし、地域が一体となった観光の推進
3. 地域が一体となった健やかな地域づくり
4. ふるさとを愛し、共に生き、暮らすことができる地域づくり

### かみきた 上北地域

#### 2030年のめざす姿

- 戦略的な農林水産業が展開されている地域
- 強みを生かした魅力的な産業が育まれている地域
- 地域ぐるみで実現する安全・安心な共生社会
- 地域を守り育てていく「上北人」が活躍する地域

#### 今後5年間の取組の基本方針

1. これからの農林水産業を支える基盤と稼ぐ仕組みづくり
2. 地域の資源や強みを生かした魅力あるしごとづくり
3. 安全・安心で健康に暮らせる地域共生社会づくり
4. 上北の明日を創る人材の確保・育成とネットワークづくり

### しもきた 下北地域

#### 2030年のめざす姿

- 住民も訪れる人も心地よい時を過ごす下北地域
- 地域の基盤となる経営体質の強い農林水産業と高いブランド力で地域内外から選ばれる下北の農林水産物
- 観光客が繰り返し訪れる下北地域
- 安心して健やかに暮らせる下北地域
- 手をつなぎ力を合わせる下北人

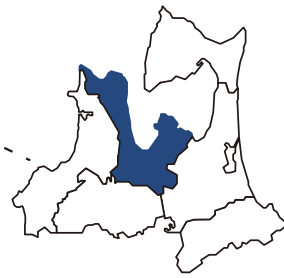
#### 今後5年間の取組の基本方針

1. 地域の特長を生かした農林水産業の充実
2. 満足度の高い下北観光の推進
3. 健康なまちづくりの推進
4. 元気な下北をつくる人づくり



# 東青地域

青森市、平内町、今別町、蓬田村、外ヶ浜町



## 1. 2030年における地域のめざす姿

### 「食」産業の充実・強化

東青地域では、様々な業種が産業の垣根を越えて相互に結び付く「食」産業が形成され、多くの地域住民が「食」産業で働くなど様々な形で携わっています。

「食」産業の基盤となる農林水産業を担う多様な「地域経営体」が、労働力不足などの地域課題の解決に主体的に取り組むことで、農山漁村地域の持続的・自立的な経済・社会活動を支えています。

農林水産業、商業、工業の連携により、付加価値を高めた商品が開発され、販売されています。また、域外に向けて戦略的に販売する「ブランド化」に向けた取組や、地元で生産されたものを地元で消費する「地産地消」の取組が進んでいます。

### 着地型観光の起点機能の確立

陸・海・空の交通拠点が集中する地の利を生かして、県内着地型観光の起点として、本県観光を支える地域となっています。

北海道新幹線による時間短縮効果や交流圏の拡大などにより、津軽海峡を挟んだ半島間の交流が盛んになっています。

また、陸奥湾をフィールドとする海の体験から、雪を楽しむウィンタースポーツまで、四季の彩りとともに年間を通じて楽しむことができるメニューが揃っており、県内はもとより、国内外から選ばれる地域となっています。

### 優れた生活・仕事環境を生かした産業の集積

働く者にとっては、都市的空間と青い森と海と空の自然豊かな空間とが近接する優れた生活・仕事環境を備えた「働きやすい地域」となっており、県都を擁することで企業などの拠点が集中し、知識集約型産業や物流産業を中心に企業集積が進んでいます。

企業にとっては、必要な情報通信インフラが十分に整備されていることに加え、国内外との交通のハブ機能を備える「戦略的事業展開を図る上で優位性のある地域」となっており、企業は、高いレベルのノウハウを海外に提供し、国際的に高く評価されています。

企業の活動を支える人財については、地域内外の大学が企業ニーズを踏まえつつ、連携して育成に当たり、質の高い労働力を安定的に供給できる体制が整備されています。

### 共に支え合い安心して老後を迎えることができる地域社会

人口減少や少子化、高齢化が進行する中においても、住民や市町村などの自発的・主体的な取組により、地域コミュニティが十分に機能する地域社会となっています。

地域住民は、一人ひとりが生きがいを持ち、日々の暮らしを楽しみながら、健康で長生きし、安心して老後を迎えています。また、この地域で子どもを産み育てたいと思う人が増えています。

## 2. 地域の概要、特性と課題 ～めざす姿の背景～

### (1) 地域の概要

#### 陸奥湾に面する豊かな風土と資源

東青地域は、面積が1,478平方キロメートル(県土の15.3%)で、全ての市町村が陸奥湾に面して帯状に連なっています。

気候は日本海側気候であり、夏は偏東風(ヤマセ)の影響を受けやすく、冬は降雪量の多い積雪寒冷地帯です。また、津軽海峡、陸奥湾の豊かな海で獲れた水産物や八甲田山からの良質な水で育成された農産物など豊富な食資源や、多くの温泉が存在します。



#### 県都を擁する交通の要衝

東青地域は県都青森市を擁し、本県の中心的な役割を担うとともに、東北新幹線と北海道新幹線の2つの新幹線駅、フェリーやクルーズ船のターミナル機能を持つ青森港、国内外からの空の玄関口である青森空港など、陸・海・空の交通拠点が集中する交通の要衝となっています。



#### 多くの歴史ロマン

東青地域には、日本最大級の縄文集落跡である特別史跡三内丸山遺跡を始め、中世の義経北行伝説ゆかりのお寺である義経寺、平安時代に訪れた円光大師(法然)の教えから人々が利用するようになったと言われている浅虫温泉、江戸時代には蝦夷地へと行き来する人々でにぎわった松前街道、幕末に吉田松陰が北方の守りの重要性を説くために訪れたみちのく松陰道、世界へ誇る昭和の大事業の足跡を後世に伝える青函トンネル記念館など、多くの歴史ロマンが残されています。



#### 豊かな風土から生まれた多彩な文化

東青地域では、毎年250万人を超える観光客が訪れる日本屈指の祭典である青森市の青森ねぶた祭を始め、県外からの若者が集まる今別町の荒馬まつり、町内外から地域の特産品や芸能が一堂に会する外ヶ浜町港まつりなど、各地で様々な催しを楽しむことができます。

また、20世紀を代表する世界的板画家棟方志功や、方言詩集で津軽の風土を歌った高木恭造、津軽三味線の名手高橋竹山など、豊かな風土の中で、芸術家、作家など、様々な分野で活躍する人物を輩出しています。



## (2) 地域の特性と課題

### 構成市町村ごとの人口と世帯数

東青地域の人口は31万640人で、県全体の23.7%を占めており、その9割以上が青森市に居住しています。(表1)

表1 構成市町村の人口・世帯数

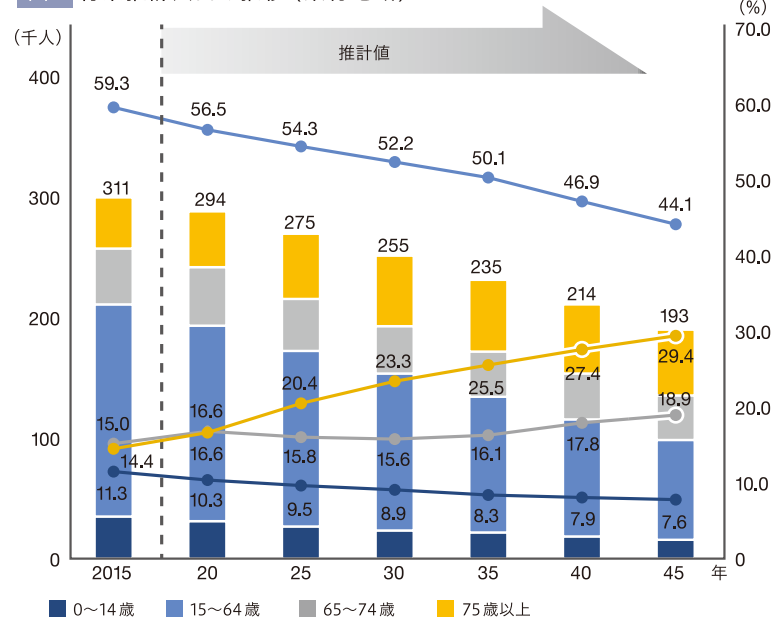
	青森市	平内町	今別町	蓬田村	外ヶ浜町	合計
人口(人)	287,648	11,142	2,756	2,896	6,198	310,640
世帯数	118,234	3,971	1,277	959	2,577	127,018

資料：総務省「平成27年国勢調査」

### 将来推計人口

2030年の東青地域の人口は約25万5千人と2015(平成27)年に比較して約5万6千人減少し、75歳以上の割合は23.3%と2015年に比較して8.9ポイント上昇するものと推計されています。(図1、表2)

図1 将来推計人口の推移(東青地域)



資料：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「市町村別将来推計人口(平成30年3月推計)」

表2 構成市町村別将来推計人口(人)

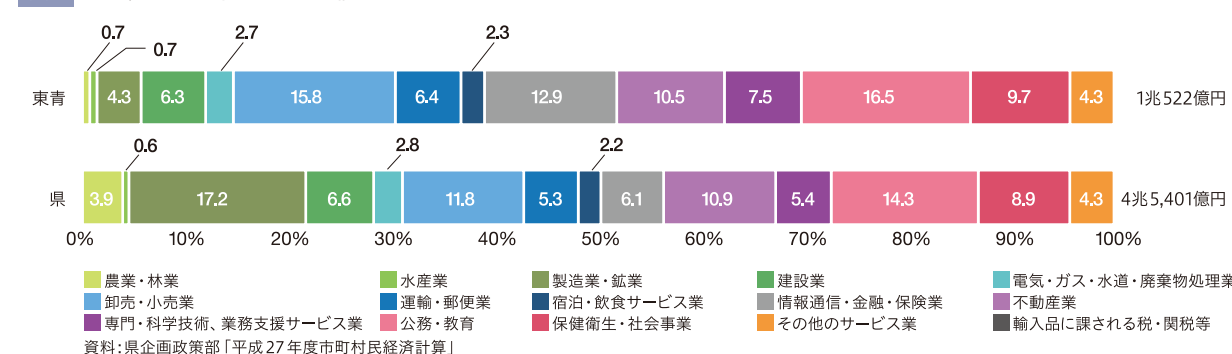
	2015年	2030年	2045年
青森市	287,648	239,472	183,528
平内町	11,142	7,834	4,846
今別町	2,756	1,609	798
蓬田村	2,896	2,183	1,477
外ヶ浜町	6,198	3,773	2,024
計	310,640	254,871	192,673

資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年3月推計)」

### 域内総生産の経済活動別構成

域内総生産は1兆522億円となっており、県全体の23.2%を占めています。内訳を見ると、「公務・教育」、「卸売・小売業」の割合が高くなっています。県全体と比べると、「情報通信・金融・保険業」や「卸売・小売業」、「公務・教育」の割合が高く、「製造業・鉱業」や「農業・林業」の割合が低くなっています。(図2)

図2 域内総生産の経済活動別構成



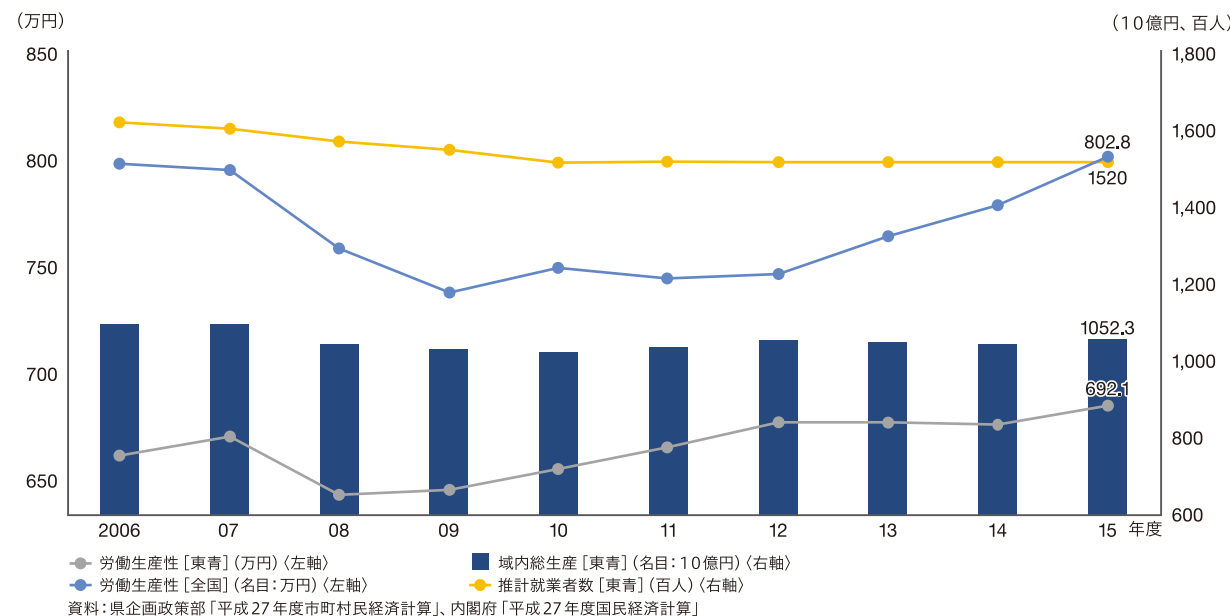
資料：県企画政策部「平成27年度市町村経済計算」

### 域内総生産及び労働生産性の推移

域内総生産は、推計就業者数とともに減少傾向にありましたが、2010(平成22)年度を底として減少傾向に歯止めがかかり、2011(平成23)年度以降はわずかながら増加傾向を示しています。

労働生産性について見ると、2009(平成21)年度に上昇に転じ、以降は全国の動きと同様、上昇傾向を示しています。(図3)

図3 域内総生産及び労働生産性の推移

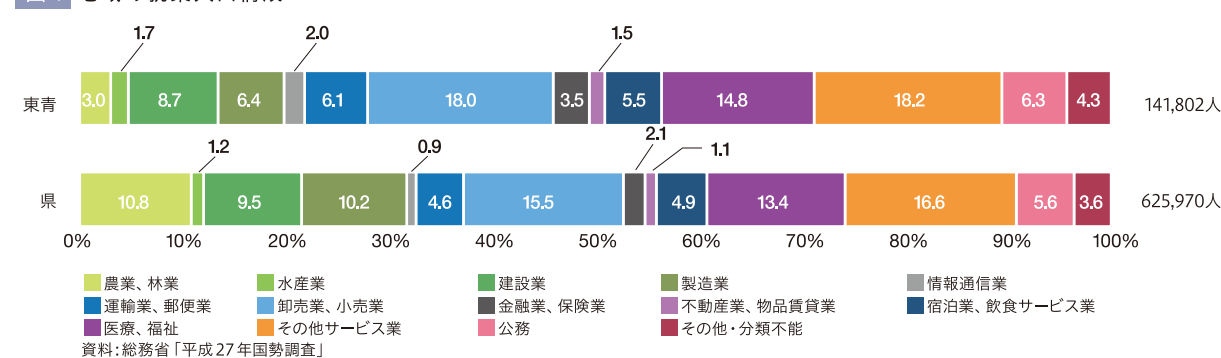


資料：県企画政策部「平成27年度市町村経済計算」、内閣府「平成27年度国民経済計算」

### 就業人口構成

就業人口は14万1,802人となっており、県全体の22.7%を占めています。内訳を見ると、「教育、学習支援業」や「生活関連サービス業、娯楽業」などを含む「その他サービス業」の割合が最も高く、次いで、「卸売業、小売業」、「医療、福祉」の割合が高くなっています。県全体と比べると、「その他サービス業」や「卸売業、小売業」、「医療、福祉」の割合が高く、「農業、林業」の割合が低くなっています。(図4)

図4 地域の就業人口構成



資料：総務省「平成27年国勢調査」

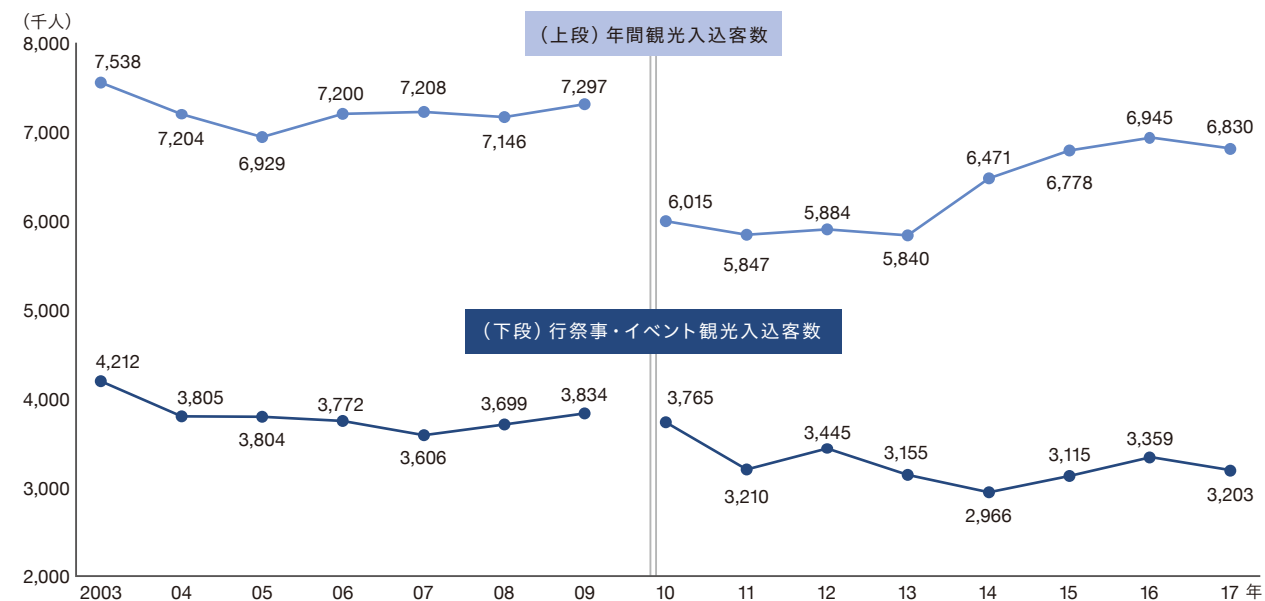


### 観光入込客数

年間観光入込客数は、2003(平成15)年以降、減少傾向を示していましたが、2006(平成18)年からは横ばいとなり、2014(平成26)年以降は増加傾向にあります。

また、行祭事・イベント観光入込客数については、2004(平成16)年以降、横ばいの傾向にあります。2015(平成27)年及び2016(平成28)年は増加し、観光施設、イベント等の両面で、北海道新幹線開業に伴う効果が見られます。(図5)

図5 東青地域の観光入込客数の推移



資料：県観光国際戦略局「青森県観光入込客統計」  
 ※2010年以降は統計手法の変更により、それ以前と単純比較できない。  
 ※2014年以降の「年間観光入込客数」は、一部の観光地点での計測方法変更の影響により、大幅増となっている。  
 ※「行祭事・イベント観光入込客数」は、当該年の入込客数が調査基準に満たない行祭事・イベントが対象外となるため、各年で単純比較できない。

### 製造業に占める食料品製造業の割合

製造業における製造品出荷額等に占める食料品の割合は44.6%と大きなウエイトを占めており、県全体と比較しても高い割合となっています。(図6)

また、全製造業に占める従業員数の割合も、食料品製造業が45.3%と大きなウエイトを占めています。(図7)

図6 製造品出荷額等に占める食料品の割合

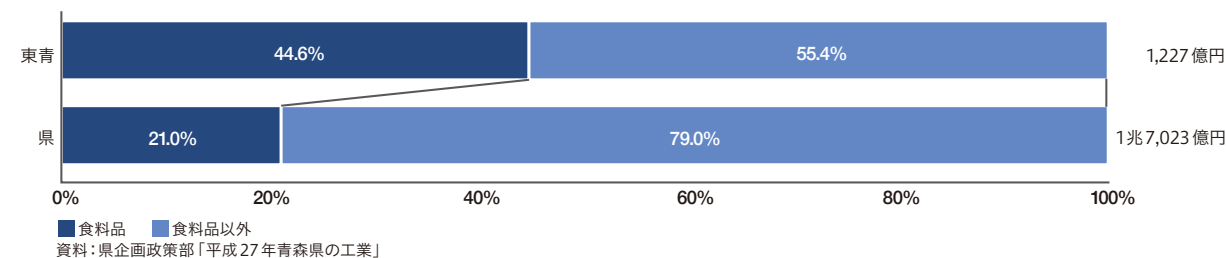
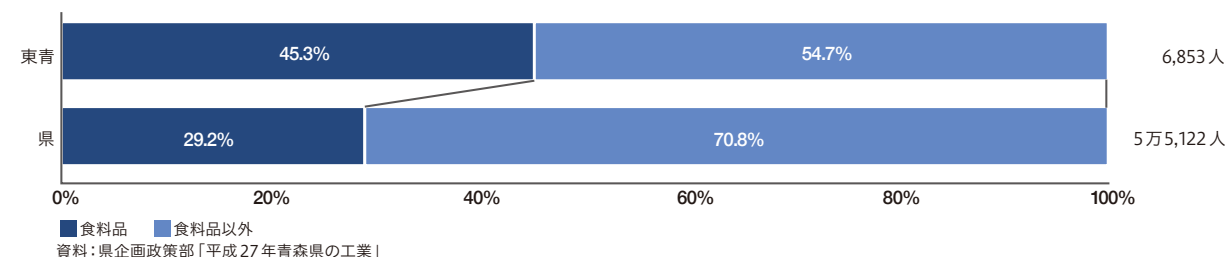


図7 全製造業に占める食料品製造業の従業員数の割合



### 平均寿命

東青地域の平均寿命は、全ての市町村で男女とも全国を下回っているものの、前回(2010(平成22)年)からの伸び幅を見ると、男性では管内5市町村のうち3市町が全国を上回るなど、着実に延伸しています。(図8、図9)

図8 市町村別平均寿命(男性：H22、H27)

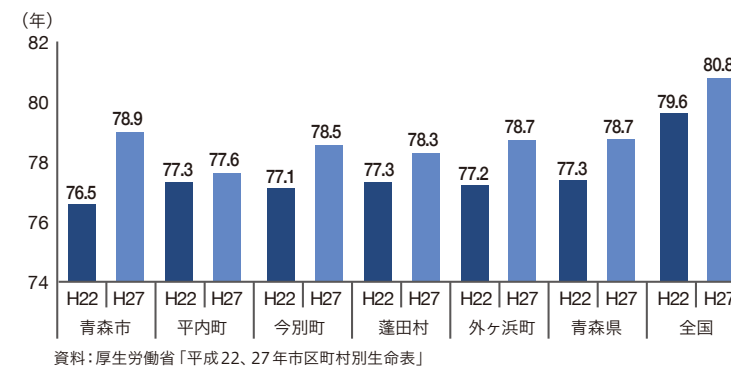
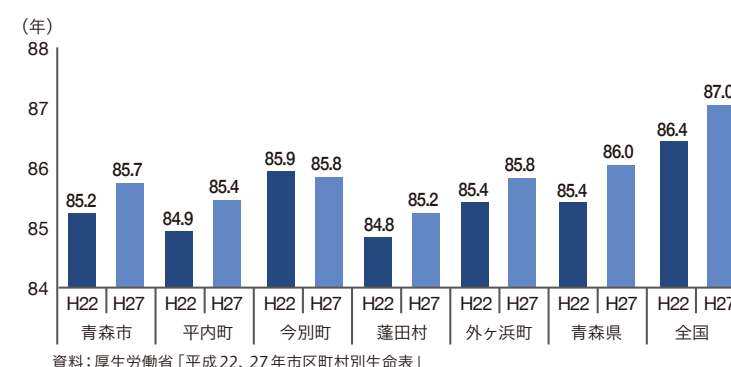


図9 市町村別平均寿命(女性：H22、H27)



### 特定健診実施率、がん検診受診率等

東青地域の特定健康診査実施状況を見ると、実施率が県を下回る市町村があるほか、特定保健指導実施率が県を大きく下回っている市町村もあるなど、実施率の向上が求められるところです。(表3)

また、がん検診受診率については、一部県を上回る市町村があるものの、総じて県内では下位を占める状況となっており、受診率向上が大きな課題となっています。(表4)

表3 市町村別特定健康診査等の実施率と県内順位(東青地域)

市町村名	特定健康診査		特定保健指導	
	実施率	順位	実施率	順位
青森市	40.0	17	40.7	26
平内町	40.9	15	40.2	28
今別町	33.1	29	15.0	40
蓬田村	36.7	25	23.5	35
外ヶ浜町	31.9	31	18.6	38
県	36.3	-	42.6	-

資料：青森県国民健康保険団体連合会「平成28年特定健診・特定保健指導実施結果」

表4 市町村別がん検診受診率の推移と県内順位(東青地域)

市町村名	胃がん				大腸がん				肺がん			
	受診率	順位	精密検査受診率	順位	受診率	順位	精密検査受診率	順位	受診率	順位	精密検査受診率	順位
青森市	18.0	20	89.6	13	30.3	15	86.2	7	12.4	37	95.8	11
平内町	7.4	40	88.5	16	12.8	39	82.8	15	12.1	38	100.0	1
今別町	17.5	22	100.0	1	24.2	23	95.5	1	26.7	18	75.0	34
蓬田村	9.8	37	90.0	9	14.2	37	60.7	37	15.3	34	75.0	34
外ヶ浜町	15.4	29	86.4	19	18.3	34	89.7	2	19.4	27	95.0	14
県	17.3	-	81.8	-	23.9	-	77.2	-	18.7	-	88.7	-

資料：厚生労働省「平成27年度地域保健・健康増進事業報告」 ※精密検査受診率は平成28年度報告に基づき算出

# 3. 今後5年間の取組の基本方針と主な取組

## 1 安全・安心で優れた農林水産物の産地づくり

「食」産業の基盤となる農林水産業の維持発展に向けて、農業者の経営発展や営農組織の育成・連携強化、様々な水産資源を生かした漁業経営の複合化など、農山漁村を支える経営体を育成する「地域経営」の取組を促進します。

また、消費者ニーズなどを踏まえた安全・安心で競争力のある農林水産物を、安定して持続的に供給できる体制を強化し、産地づくりを進めます。

### 主な取組

- ① 地域経営体への発展を見据えた経営感覚に優れた担い手の確保・育成
- ② 集落営農組織の法人化と組織間連携等による地域営農体制の強化
- ③ 「こだわり」のある産地の形成
- ④ 「良品」生産力の強化及び複合経営の推進による農林水産業の経営安定

## 3 地域の魅力づくりと広域観光の推進

2つの新幹線駅や大型クルーズ船が寄港できる青森港、国内外からの玄関口となる青森空港を始め、陸・海・空の交通拠点が集中する地の利を生かし、この地域ならではの魅力の創出を進め、観光客の誘致と地域内での滞在時間や消費の拡大を図ります。

津軽半島や夏泊半島と、下北半島や道南地域との広域での交流人口の拡大を図ります。

### 主な取組

- ① 北海道新幹線奥津軽いまべつ駅開業効果の持続的な獲得に向けた取組の促進
- ② 交通拠点を生かした魅力づくり、にぎわいづくり、生業づくり
- ③ 食、歴史、文化、温泉など多彩な資源を生かした通年観光化
- ④ 半島間の連携による交流の促進

## 2 地域資源の高付加価値化と販売の促進

「食」を始めとして、地域内の様々な業種が産業の垣根を越えて相互に結び付き、連携を強化することで、地域資源の付加価値を高めるとともに、販売体制を強化し、生産・加工を含めた総合的・戦略的な外貨の獲得を図ります。

また、地域資源を活用した体験メニューの創出など、観光の観点からの資源の組合せや連携を進めることによる高付加価値化を図ります。

### 主な取組

- ① 産学官金連携や農商工連携による商品開発や加工・提供の促進
- ② 地域資源の発掘・活用と加工・販売を担う次世代の多様な人財の育成
- ③ 生産・加工・販売のネットワーク化による販売力の強化とブランドイメージを活用した販売促進
- ④ 地域資源を活用したグリーン・ツーリズムの推進

## 4 一人ひとりが健康でいつまでも住み続けられる地域づくり

健康で長生きできる地域の実現に向けて、三大死因など生活習慣病のリスクを回避するため、生活習慣の改善について、一人ひとりが理解し、行動に移すことができるよう、関係機関が連携して取り組みます。

また、人口減少や少子化、高齢化が進行する中であっても、地域における保健・医療・福祉体制の充実、地域づくりや生活支援サービスを支える多様な担い手の確保・育成、交通や買物などの生活機能の維持・確保を図り、いつまでも住み続けられる地域をめざした取組を進めます。

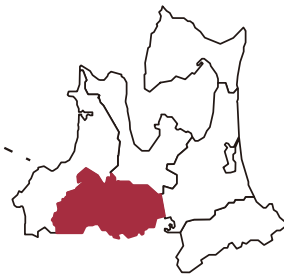
### 主な取組

- ① 一人ひとりが正しい知識に基づき、主体的に生活習慣を改善するための普及啓発と環境づくりの推進
- ② 食生活の改善、運動習慣の定着、禁煙の推進等による生活習慣病の発症予防と特定健診実施率、がん検診受診率等の向上による重症化予防の推進
- ③ 自治会、地域商店街、地域づくり団体等が行う地域コミュニティ活動の活性化
- ④ 地域を支える担い手の育成と地域に対する愛着心を育む活動の促進
- ⑤ 支え合い、安心して暮らせる生活環境づくり



# 中南地域

弘前市、黒石市、平川市、西目屋村、藤崎町、大鰐町、田舎館村



## 1. 2030年における地域のめざす姿

### 先端技術を導入した 高付加価値農業の先進地

生産年齢人口が減少する中で、農家の高齢化や深刻化する労働力不足に対応するため、ICT等を取り入れた新たな農業(スマート農業)の推進や熟練した技術が不要な新たな栽培方法、施設型農業分野での自動化技術などを積極的に導入した高付加価値農業が営まれています。

また、農産物の生産・加工・販売を地域内で各主体が連携・協力して展開する体制が整備されており、海外への輸出から全国的な流通、産直施設での販売、農家レストランや家庭での食事に至るまで、あらゆる場所で津軽の「美味しい食」が提供されています。

### 優れた「人財力」を誇る ものづくりの地

中南地域に集積している加工組立型産業や医療機器などの先端技術産業、豊富な地域資源を活用した地場産業などの各分野において、高い労働生産性を実現する優れた人財が数多く集まり、活躍するものづくりの地が形成されています。そこでは、企業や大学、試験研究機関などで働く人財が協力し、競い合いながら独創的な技術を創造しています。

また、津軽塗、ブナコ、津軽打刃物など、数多くの優れた工芸品が存在する地域となっています。

### 多彩な観光資源を活用した 感動劇場

新幹線や航空機を利用して全国や世界各国からこの地を訪れた人々は、世界自然遺産白神山地や秀峰岩木山を始めとした自然の恵みや城下町の古い町並み、明治のハイカラな洋館や近代モダニズムを象徴する建造物、豊かに広がるりんご園や地域の食、工芸品など、津軽の地で暮らしてきた人々が紡いできた物語を文化として感じ取り、興味深く楽しんでおり、訪れた人々が懐かしさと温もりで心地よさを覚えながら、更なる知的好奇心に心が躍り「また訪れたい」と何度も足を運ぶ感動の地となっています。

### 誰もが支え合い 健康に暮らせる地域

中南地域では、豊かな自然環境の中で、健康的な生活習慣を支えるヘルスリテラシー(健やか力)が子どもの頃から普及定着しており、健やかで豊かな生活を送るために必要な食育や運動などに住民一人ひとりが楽しく積極的に取り組んでいるとともに、自主的な健康づくりを行う多様な住民組織も数多く作られています。

また、「公助」だけではなく「互助」や「共助」といった、行政のほか住民組織や社会福祉法人、NPO、ボランティアなどが横断的に連携し、誰もが支え、支えられる地域の仕組みづくりがなされています。

## 2. 地域の概要、特性と課題 ~めざす姿の背景~

### (1) 地域の概要

#### 山々と豊かな水に育まれた米とりんごの里

中南地域は、県の南西部に位置し、東方には八甲田連峰、西方には岩木山と白神山地、南方には矢立峠など山々に囲まれており、県内で唯一海に接していない地域です。白神山地に源を発する岩木川と、その支流の浅瀬石川、平川が津軽平野を潤して肥沃な土壌を形成しており、本県を代表する穀倉地帯となっています。また、平野周辺部の丘陵地帯には、日本を代表するりんご園が広がっています。



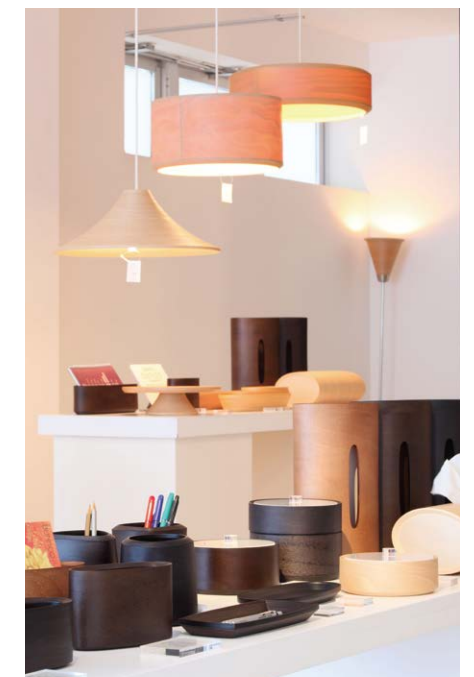
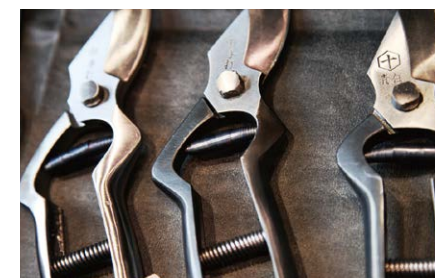
#### 四季折々の豊かで美しい自然

岩木山が冬の北西からの季節風を遮ってくれることで、全国有数の豪雪地帯である津軽地域の中にあっては比較的穏やかな地域であり、夏も偏東風(ヤマセ)の影響が少なく、季節ごとに表情を変える豊かで美しい自然を堪能することができます。



#### 歴史や伝統に育まれた豊富な地域資源

津軽氏の城下町を中心に古くから人や物資が集積した中南地域は、国指定史跡の弘前城や黒石市のこみせ通り、岩木山のお山参詣や各地域でのねぶた祭りなどの豊富な地域資源を有し、歴史や伝統に根ざした文化の香り高い地域であり、津軽塗を始めブナコや津軽打刃物など地域の資源と技を生かした数多くの優れた工芸品が生み出されています。



### 高速交通体系の整備によるアクセスの向上

中南地域の基幹道路として国道7号、国道102号、東北縦貫自動車道が県内外に伸びており、鉄道としてJR奥羽本線、JR五能線、弘南鉄道が運行されています。

2010(平成22)年の東北新幹線全線開業や2016(平成28)年の北海道新幹線の開業、また、青森空港への国際定期便・チャーター便の就航等により、中南地域と国内外とのアクセス環境は飛躍的に向上しています。



### (2) 地域の特性と課題

#### 構成市町村ごとの人口と世帯数

中南地域の人口は、27万7,854人であり、弘前市が全体の約6割を占めています。(表1)

表1 構成市町村の人口・世帯数

	弘前市	黒石市	平川市	西目屋村	藤崎町	大鰐町	田舎館村	合計
人口(人)	177,411	34,284	32,106	1,415	15,179	9,676	7,783	277,854
世帯数	71,152	11,770	10,129	488	4,942	3,421	2,382	104,284

資料：総務省「平成27年国勢調査」

#### 将来推計人口

中南地域の人口は、2030年には23万897人となり、2015年と比べ4万6,957人減少すると推計されています。また、75歳以上の人口の割合は、2015(平成27)年の15.7%から22.5%に上昇すると推計されています。(図1、表2)

図1 将来推計人口の推移(中南地域)

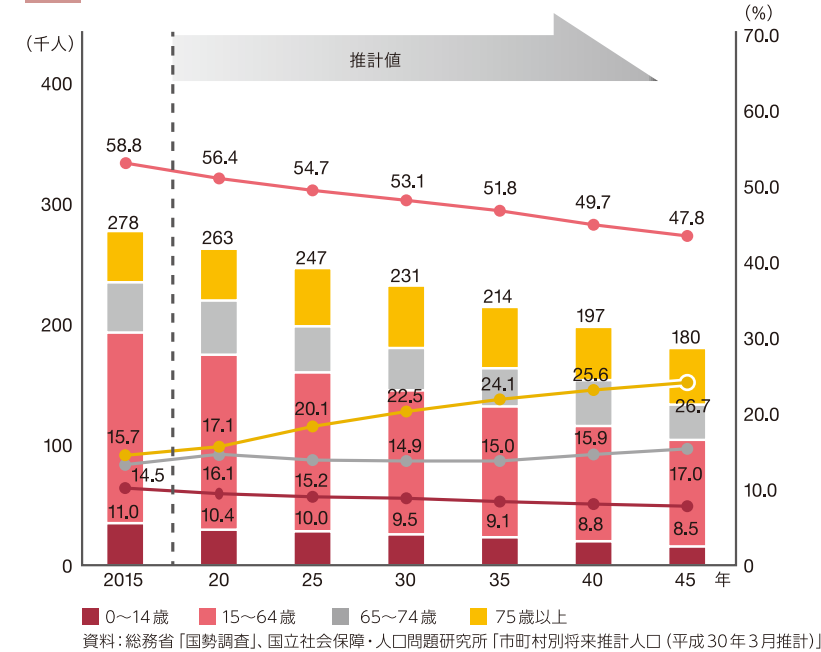


表2 構成市町村別将来推計人口(人)

	2015年	2030年	2045年
弘前市	177,411	151,287	120,920
黒石市	34,284	27,468	20,340
平川市	32,106	26,245	20,154
西目屋村	1,415	953	611
藤崎町	15,179	12,460	9,522
大鰐町	9,676	6,225	3,649
田舎館村	7,783	6,259	4,618
計	277,854	230,897	179,814

資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年3月推計)」

### 医療機関や試験研究機関の集積

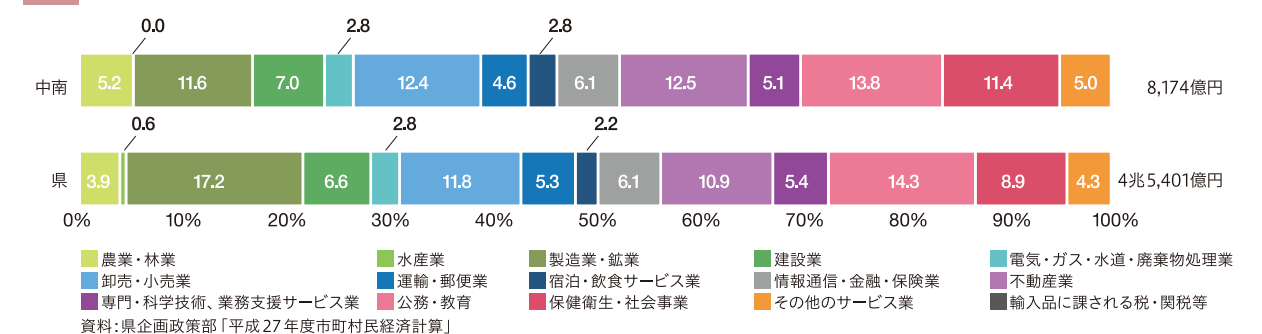
弘前大学医学部附属病院を始めとした医療機関が集積していることに加え、弘前大学や青森県産業技術センター弘前工業研究所、同農林総合研究所など数々の試験研究機関があり、地域の健康づくりや産業振興に寄与しているほか、近年は業務用機械や電子部品、電気機械などの最先端の加工組立型産業が立地しています。



#### 域内総生産の経済活動別構成

中南地域の域内総生産は8,174億円であり、県全体の18.0%を占めています。内訳を県全体と比べると、「保健衛生・社会事業」や「不動産業」、「農業・林業」などの割合が県全体より高くなっています。(図2)

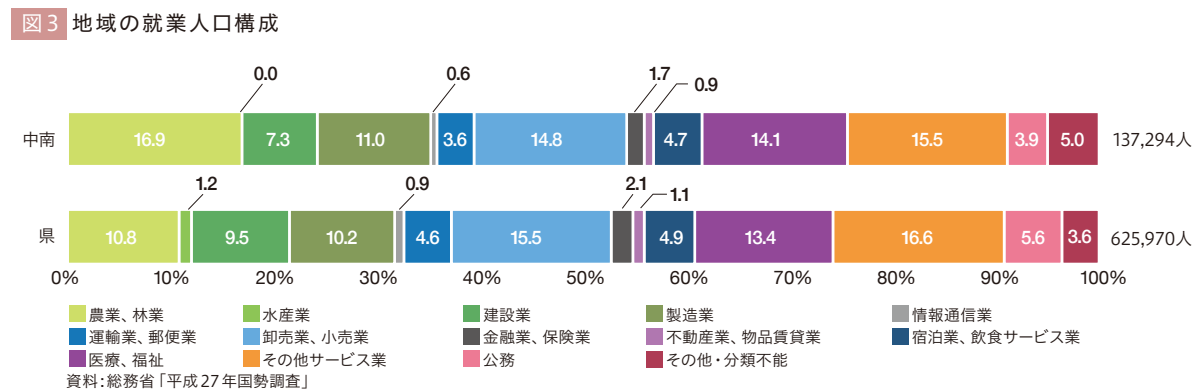
図2 域内総生産の経済活動別構成





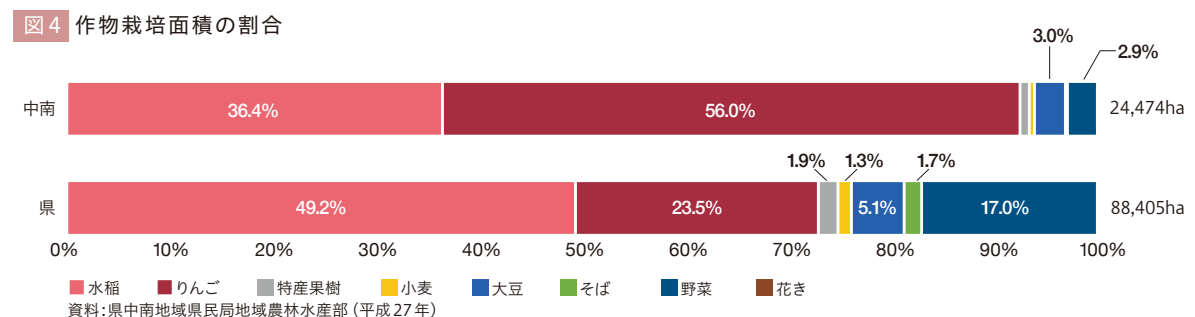
### 就業人口構成

中南地域の就業者数は13万7,294人であり、県全体の21.9%を占めています。内訳を県全体と比べると、「農業、林業」の割合が高く、「建設業」、「公務」の割合が低くなっています。(図3)



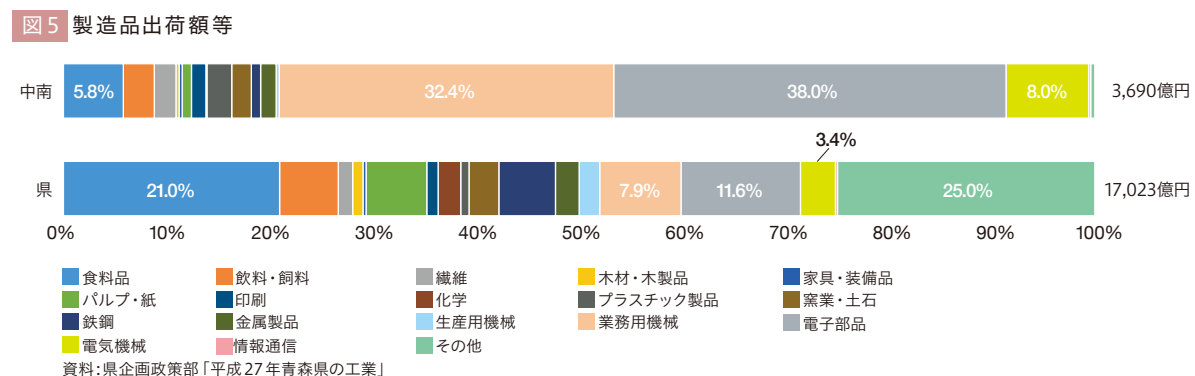
### 作物栽培面積

中南地域の作物栽培面積は2万4,474ヘクタールであり、県全体の27.7%を占めています。内訳を見ると、りんごが56.0%、米が36.4%とこの2つで全体の92.4%を占めています。(図4)



### 製造品出荷額等

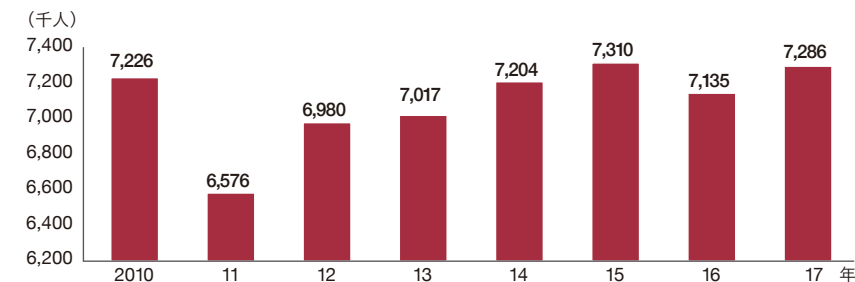
中南地域の製造品出荷額等は3,690億円であり、県全体の21.7%を占めています。内訳を見ると、業務用機械が32.4%、電子部品が38.0%、電気機械が8.0%を占めており、加工組立型産業が盛んな地域です。また、豊富な農産資源を活用した食料品製造業も盛んです。(図5)



### 観光入込客数

中南地域の観光入込客数は728万6千人であり、県全体の20.8%を占めています。東日本大震災以降、これまで着実に増加してきており、700万人台で推移しています。(図6)

図6 中南地域の観光入込客数の推移



資料：県観光国際戦略局「青森県観光入込客統計」  
ただし、2011年、2012年は同統計による入込客数に田舎館村「田んぼアート」の入込客数（2013年からは同統計に含まれている。）を加え、中南地域県民局が作成。

### 平均寿命

2015(平成27)年の中南地域の市町村別の平均寿命は、2010(平成22)年に比べて女性の藤崎町、大鰐町を除く男女で伸びていますが、男性は弘前市、田舎館村を除く5市町村で、女性は弘前市、黒石市、西目屋村を除く4市町村で県平均を下回っています。(表3)  
津軽地域保健医療圏の悪性新生物(がん)の標準化死亡比(SMR)※は、男女とも総数、部位別において、県平均より高くなっています。(図7、図8)

表3 市町村別平均寿命

市町村	男性				女性			
	2015年	県平均との差	2010年	2015-2010	2015年	県平均との差	2010年	2015-2010
	青森県	78.7	-	77.3	1.4	86.0	-	85.4
弘前市	79.0	0.3	77.7	1.3	86.2	0.2	85.7	0.5
黒石市	78.3	△0.4	76.7	1.6	86.0	0.0	85.4	0.6
平川市	78.6	△0.1	76.7	1.9	85.7	△0.3	85.4	0.3
西目屋村	78.6	△0.1	77.5	1.1	86.0	0.0	85.2	0.8
藤崎町	78.5	△0.2	77.5	1.0	85.4	△0.6	86.4	△1.0
大鰐町	78.3	△0.4	76.9	1.4	85.7	△0.3	86.0	△0.3
田舎館村	78.8	0.1	76.9	1.9	85.9	△0.1	85.2	0.7

資料：厚生労働省「市区町村生命表」

図7 悪性新生物の部位別標準化死亡比(SMR)(男性)

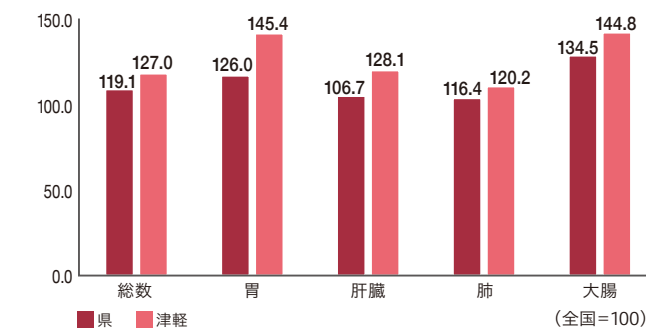
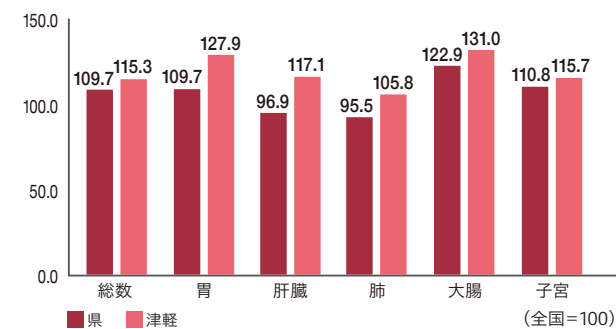


図8 悪性新生物の部位別標準化死亡比(SMR)(女性)



資料：県健康福祉政策課集計（2011～2015年分の試算） ※津軽地域の構成市町村は、弘前市、黒石市、平川市、西目屋村、藤崎町、大鰐町、田舎館村、板柳町である。

※標準化死亡比(SMR)：死亡率は通常年齢によって大きな違いがあることから、標準的な年齢構成に合わせて地域別年齢階級別の死亡率を算出し、全国水準との比較を可能にするものです。100を上回ると全国水準よりも死亡率が高いことがわかります。

# 3. 今後5年間の取組の基本方針と主な取組

## 1 労働生産性の向上や6次産業化による稼げる農林業の推進

生産年齢人口が減少する中で地域の経済を支えていくため、農業の現場において、より一層の高付加価値化を進めることで労働生産性の向上を図ります。

また、農家の高齢化や深刻化する労働力不足に対応するため、効率化・省力化を促進する栽培技術の確立に取り組みます。農業の6次産業化を進めることで稼げる農業を推進するほか、農業を観光や地域づくりの一つの資源と位置付け、これらの分野での活用を推進します。

### 主な取組

- ①「青森りんご」のブランド力を生かした輸出促進のための検疫措置の徹底、あおもり米「青天の霹靂」の市場価値を更に高めていくためのきめ細かな栽培指導及び特別栽培の定着、グローバルGAP※認証の取得促進
- ②高齢化や労働力不足に対応した、熟練した技術が不要な栽培方法の導入による新規就労の促進やICT等を取り入れた新たな農業の推進、農家と補助労働者とのマッチング機会の充実
- ③施設型農業分野での労働生産性向上を図るための自動化技術やAI技術の導入促進
- ④農業の6次産業化を促進するための各分野の連携・協力による生産力・加工力・販売力の充実・強化
- ⑤「地域経営」の核となる担い手の確保・育成
- ⑥農林業の競争力強化に向けた基盤整備の推進
- ⑦農林作業・加工体験メニューの充実と農家民泊などによるグリーン・ツーリズムの推進

## 3 感動の舞台づくり

自然、歴史、文化、食など様々な観光資源を生かしながら、ターゲットを明確にした観光プログラムの設定・充実を図るとともに、それらの情報を的確に国内外の観光客に向け情報発信することにより、交流人口の拡大を図ります。

また、北海道新幹線や青森・函館両空港を利用した立体観光メニューの造成、外国人観光客の増加に対応した電子決済などの受入態勢の整備促進を図ることで「北海道・北東北観光のブロードウェイ」をめざします。

### 主な取組

- ①自然・歴史・文化・食・伝統工芸など、津軽の暮らしを体験できる街歩き観光の推進
- ②世界自然遺産白神山地を始めとした豊かな自然の魅力に触れることのできる自然体験観光の推進
- ③美しい都市景観の形成促進や交通手段の利便性向上
- ④電子決済システムの導入やWi-Fi環境の整備の促進
- ⑤外国人観光客や個人・小グループの旅行に対応した特色のある観光メニューづくりと情報発信の強化

## 2 ものづくり産業を支える人財力の強化

労働生産性を高めて労働力不足に対応していくため、管内に立地する誘致企業や地元企業で働く人々の人財力向上を図るとともに、就業体験や企業とのマッチング機会の充実等を図っていくことで若者や女性の定着を促進します。

また、高等教育機関や試験研究機関と連携して医療・健康・福祉関連産業や先端技術産業の創出に取り組む人財の育成・誘致を図ります。

### 主な取組

- ①管内に数多く立地している加工組立型産業等で働く人財のスキル(技術力・企画力等)向上のための研修機会等の充実
- ②高校生や大学生など若者の県内定着を促進するための就業体験やキャリアデザインをトータルで考えることができる情報の提供、UIJターンのための効果的な情報発信など、多様な選択肢を確保するための機会の提供
- ③高等教育機関や試験研究機関を核とした医療・健康・福祉関連産業や先端技術産業の成長促進、AI技術等を活用して農業分野やものづくりなどの地域産業に貢献する人財の育成・誘致
- ④伝統工芸産業の販路拡大や後継者育成の促進

## 4 誰もが支え合い安心して暮らしていける地域社会づくり

働き盛り世代の死亡の減少と健康寿命の延伸を図るため、がん検診受診率向上と要精密検査者の精密検査受診率向上のための取組や子どもの頃から運動に親しむ環境づくりを進めます。

また、地域において、住民一人ひとりが生き生きと暮らしていけるよう、住民や各種団体等が自ら考え、連携して高齢者等の外出支援や安否確認、買物支援など、地域で互いに支え合う仕組みづくりと安全・安心な生活環境の保全に取り組めます。

### 主な取組

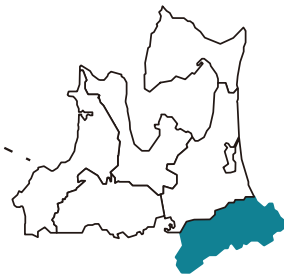
- ①がん検診受診率と精密検査受診率の向上に向けた啓発活動の強化
- ②子どもの頃から健康づくりを学ぶ機会の提供と気軽に運動に取り組むことのできる環境づくり
- ③禁煙及び受動喫煙防止対策の一層の推進
- ④地域の実情や課題に応じた「青森県型地域共生社会」の実現に向けた多様な主体による取組の促進
- ⑤安全・安心な生活環境を保全していくための水・大気環境の保全や廃棄物の適正処理とリサイクルの促進

※グローバルGAP:農業において、食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための農業生産工程管理の取組(GAP:適正農業規範)の国際的な認証のことです。



# 三八地域

八戸市、三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村



## 1. 2030年における地域のめざす姿

### 元気なものづくり産業の集積とエネルギー・リサイクルの進んだ地域

経営力の高いものづくり企業の増加、地域特性を生かした新たな成長分野への参入、地域産業に密着した誘致企業の立地、創業・起業へのチャレンジなどが進み、自然災害や景気変動にも強く地域をけん引する多種多様な産業が集積するとともに、地元就職し、活躍する若者や女性が増加しています。

また、地域特性を生かした多様な再生可能エネルギーの高度利用や地域企業の新規参入が進んでいます。

### 力強い経営体が地域を支える農山漁村

農山漁村では、生産物の高品質化や積極的な情報発信、販売力強化などにより、さくらんぼやにんにく、イカ、サバなど様々な地域産品のブランド力が向上し、競争力のある農林水産物が生産、販売されるとともに、6次産業化等新たなビジネスの拡大により域内外市場産業との取引が拡大しています。

また、地域を支える農林水産業を基盤とした多様な経営体が育ち、高齢者も取り組むことのできる生産体系、ロボット技術やAI、IoT等を導入した生産の効率化などにより、労働力の減少や高齢化に対応した農林水産業が展開されるとともに、多様な経営体による地域コミュニティへの貢献活動が行われています。

### 国内外から選ばれる、行ってみたい観光地

DMO※を中心として、地域の団体・事業者等が連携しながら、競争力の高い魅力ある観光地づくりに取り組んでおり、豊かな自然・歴史・文化・食・祭りなどが観光コンテンツとして融合し、三八地域ならではの新たな魅力が生まれるとともに、独自の価値を体験できる観光商品が充実し、三八地域が国内外から、訪れるべき地として認められています。

観光施設や交通アクセスの充実、おもてなしの向上、インバウンド対応等により、訪れた観光客の誰もが自由に楽しめる、気持ちよく滞在できる受入環境の整備が進展しています。

### 健康、長寿で、生き生きと安心して暮らせる地域

地域住民一人ひとりが、健康的な生活習慣づくりや疾病予防などへの高い意識を持ち、健康寿命が延びています。

また、地域住民による互助の意識が暮らしの中に浸透し、誰もが安心して老後を迎えることができる地域づくりがなされています。

※DMO: Destination Management/Marketing Organization の略称で、地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地づくりの舵取り役となる法人のことで、多様な関係者と協働しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えています。

## 2. 地域の概要、特性と課題 ～めざす姿の背景～

### (1) 地域の概要

#### 八戸圏域連携中枢都市圏による地域連携

三八地域は、県の南東部に位置し、東は太平洋に面し、西は秋田県に、南は岩手県に接しており、面積は1,275平方キロメートル(県土の13.2%)となっています。

年間を通して穏やかな気候で、夏は偏東風(ヤマセ)の影響を受け冷涼で、冬は晴天が多く乾燥しています。降雪量が少なく、年間日照時間が長いことが特徴です。

当地域の中心都市である八戸市は2017(平成29)年に中核市に移行し、これを受け、同年、連携中枢都市圏※の連携協約(三八地域の7市町村及びおいらせ町)が締結されました。「経済成長のけん引」、「高次の都市機能の集積・強化」、「生活関連機能サービスの向上」をめざし、八戸圏域連携中枢都市圏ビジョンを策定して、連携事業を推進しています。

#### 多彩な農林水産資源ともものづくり産業の集積

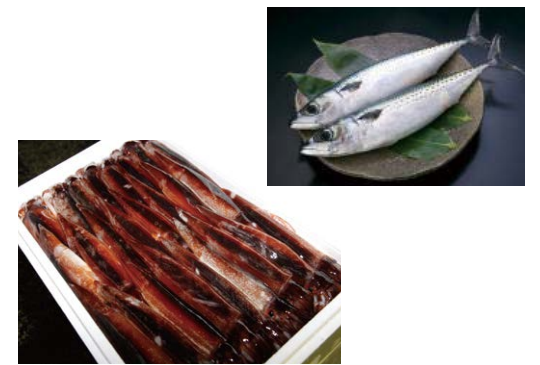
日本有数の水産基地である八戸漁港を有し、イカ、サバ、イワシなど多様な水産物の水揚げがあり、古くから水産加工を始めとする食料品製造業が集積しているほか、にんにくやながいもなどの野菜や、さくらんぼや西洋なしなどの果樹の栽培、肉用牛や飼料コンビナートを生かした養豚・養鶏、南部アカマツに代表される林産物など、多彩な農林資源にも恵まれています。

また、地域には、17の工業団地が整備され、鉄鋼・非鉄金属、製紙、化学、半導体製造装置、情報通信機器、自動車・航空機搭載部品、ソフトウェア産業などが立地し、東北有数の産業集積地となっています。

#### 青森県と国内外をつなぐ交通・物流の拠点

東北・北海道新幹線により、八戸・東京間が3時間弱で結ばれているほか、東北縦貫自動車道八戸線等の高速道路網、本州と北海道を結ぶフェリーが就航する八戸港、近隣に三沢空港が整備されています。重要港湾である八戸港は、国際コンテナ定期航路として2つの国際航路と3つの内航フィーダー航路※を有しており、当地域は、北東北における陸・海・空の高速交通の結節点であるとともに、物流拠点にもなっています。地域の町村には、JR八戸線、青い森鉄道や路線バスが接続し、20～60分程で移動可能となっています。

※連携中枢都市圏: 人口20万人以上の中心市を中核にして、周辺自治体が広域で連携し、地域課題の克服や地域活性化に取り組む仕組みのことで、  
※内航フィーダー航路: 国内の主要港湾と国内各地の港を結ぶ国内2次輸送航路のことで、





### 教育機関や産業支援機関の集積

八戸工業大学、八戸学院大学、八戸工業高等専門学校などの高等教育機関、青森県産業技術センター(八戸工業研究所、食品総合研究所)、株式会社八戸インテリジェントプラザを始めとする試験研究機関、産業支援機関などを有し、人材育成や研究開発、産業支援の体制が整っています。



### エネルギー分野の取組が進む地域

三八地域は、日照時間の長さを生かし、県内でも太陽光発電の導入が進んでいる地域の一つであり、東北電力初のメガソーラー発電所である八戸太陽光発電所が2011(平成23)年12月に稼働したほか、2015(平成27)年にはLNG輸入基地が、2018(平成30)年には八戸バイオマス発電所がそれぞれ運転を開始しています。

### 三八地域ならではの多様な地域資源

三八地域には、三陸復興国立公園に指定された種差海岸や階上岳、みちのく潮風トレイルなどの自然、ユネスコ無形文化遺産に登録された八戸三社大祭や国指定重要無形民俗文化財である八戸えんぶりなどの祭り、是川縄文館や南部利康霊屋などの歴史、館鼻岸壁朝市や横丁などの文化、八戸せんべい汁や田子ガーリックステーキごはん、馬肉料理などの食、八食センターや道の駅、産直施設などの物販拠点といった地域資源に恵まれているとともに、豊富な農林資源を活用したグリーン・ツーリズムが盛んです。



また、ヴァンラーレ八戸FC(サッカー)、東北フリーブレイズ(アイスホッケー)、青森ワッツ(バスケットボール)などプロスポーツの観戦機会も多くあり、観客数を増やしています。



## (2) 地域の特徴と課題

### 構成市町村ごとの人口と世帯数

三八地域の人口は29万9,225人で、このうち八戸市が約77.3%を占めています。県全体に占める地域の人口の割合は22.9%です。

表1 構成市町村の人口・世帯数

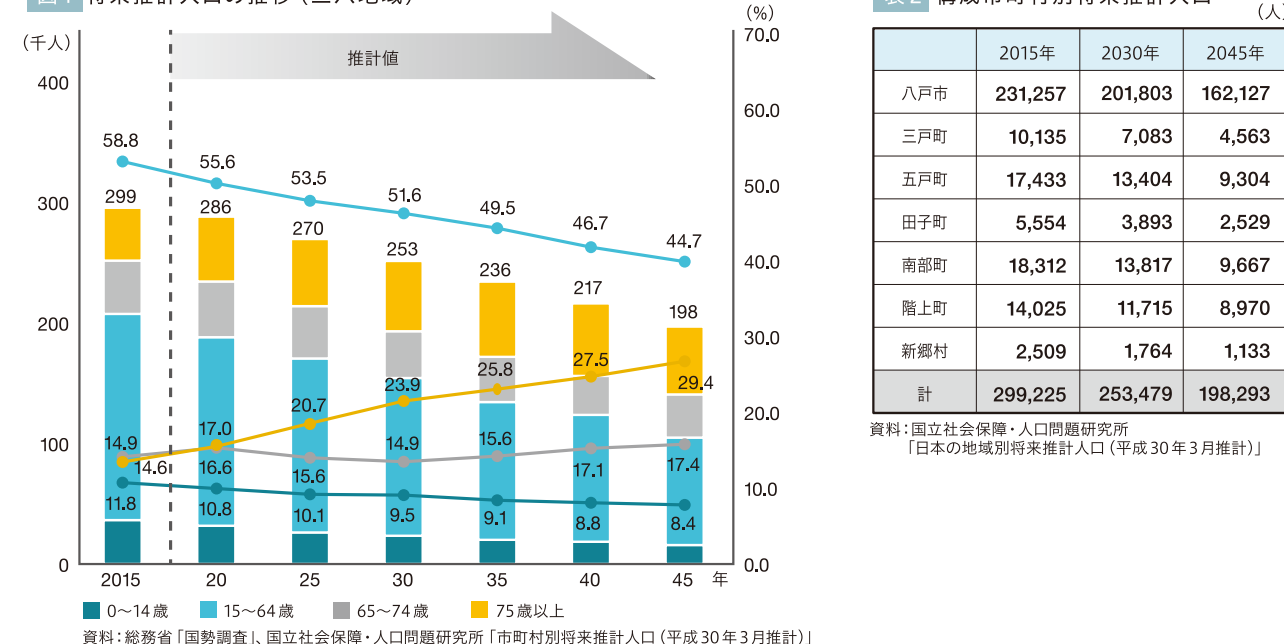
	八戸市	三戸町	五戸町	田子町	南部町	階上町	新郷村	合計
人口(人)	231,257	10,135	17,433	5,554	18,312	14,025	2,509	299,225
世帯数	93,750	3,756	6,123	2,006	6,419	5,699	831	118,584

資料:総務省「平成27年国勢調査」

### 将来推計人口の推移

三八地域の人口は、2030年の時点では25万3,479人と、2015(平成27)年と比べ、4万5,746人、15.2%減少する見込みです。年齢別に見ると、老年人口の割合が増加を続け、2030年には人口の38.8%まで上昇すると見込まれており、このうち、75歳以上の割合は、23.9%に達する見込みです。(図1、表2)

図1 将来推計人口の推移(三八地域)

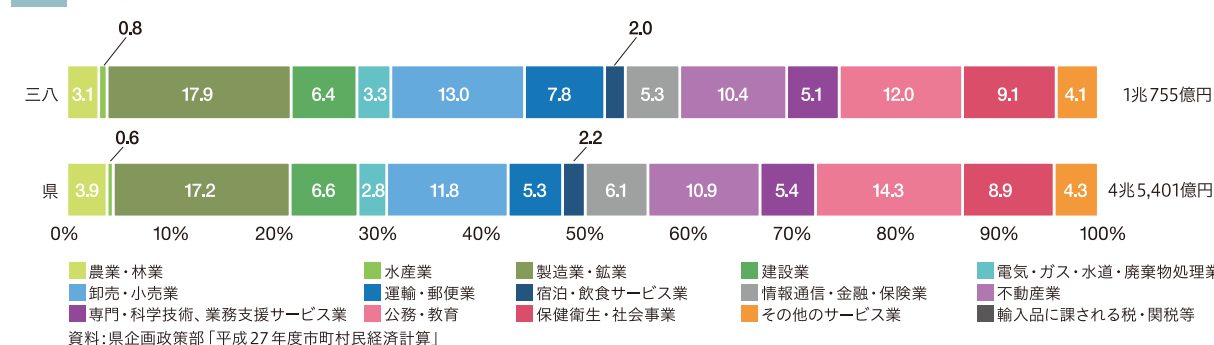


### 域内総生産の経済活動別構成

2015(平成27)年度の域内総生産は1兆755億円となっており、県全体の23.7%を占めています。内訳を見ると、「製造業・鉱業」、「卸売・小売業」、「公務・教育」、「不動産業」の割合が高くなっています。

県全体と比べると、「製造業・鉱業」、「電気・ガス・水道・廃棄物処理業」、「卸売・小売業」、「運輸・郵便業」の割合が高く、「農業・林業」や「公務・教育」の割合が低くなっています。(図2)

図2 域内総生産の経済活動別構成



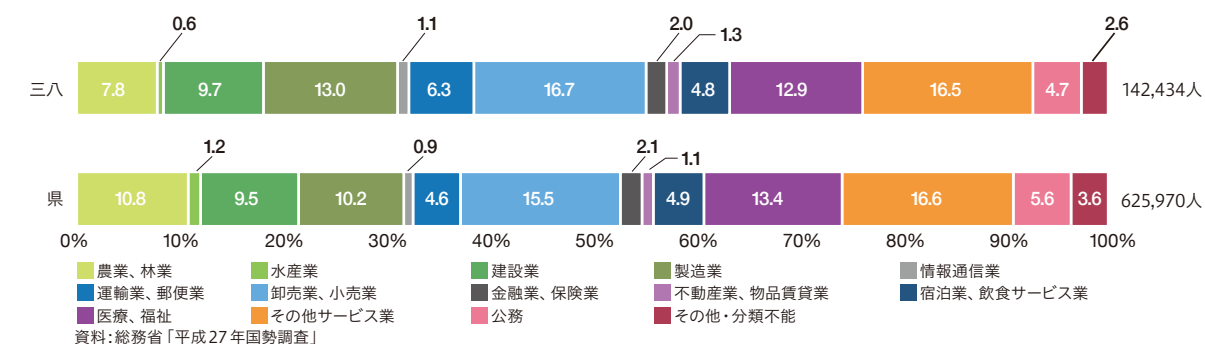


就業人口構成

2015(平成27)年の就業人口は14万2,434人となっており、県全体の22.8%を占めています。内訳を見ると、「卸売業、小売業」の割合が最も高く、次いで、「その他サービス業」、「製造業」の割合が高くなっています。

県全体と比べると「製造業」や「卸売業、小売業」の割合が高く、「農業、林業」の割合が低くなっています。(図3)

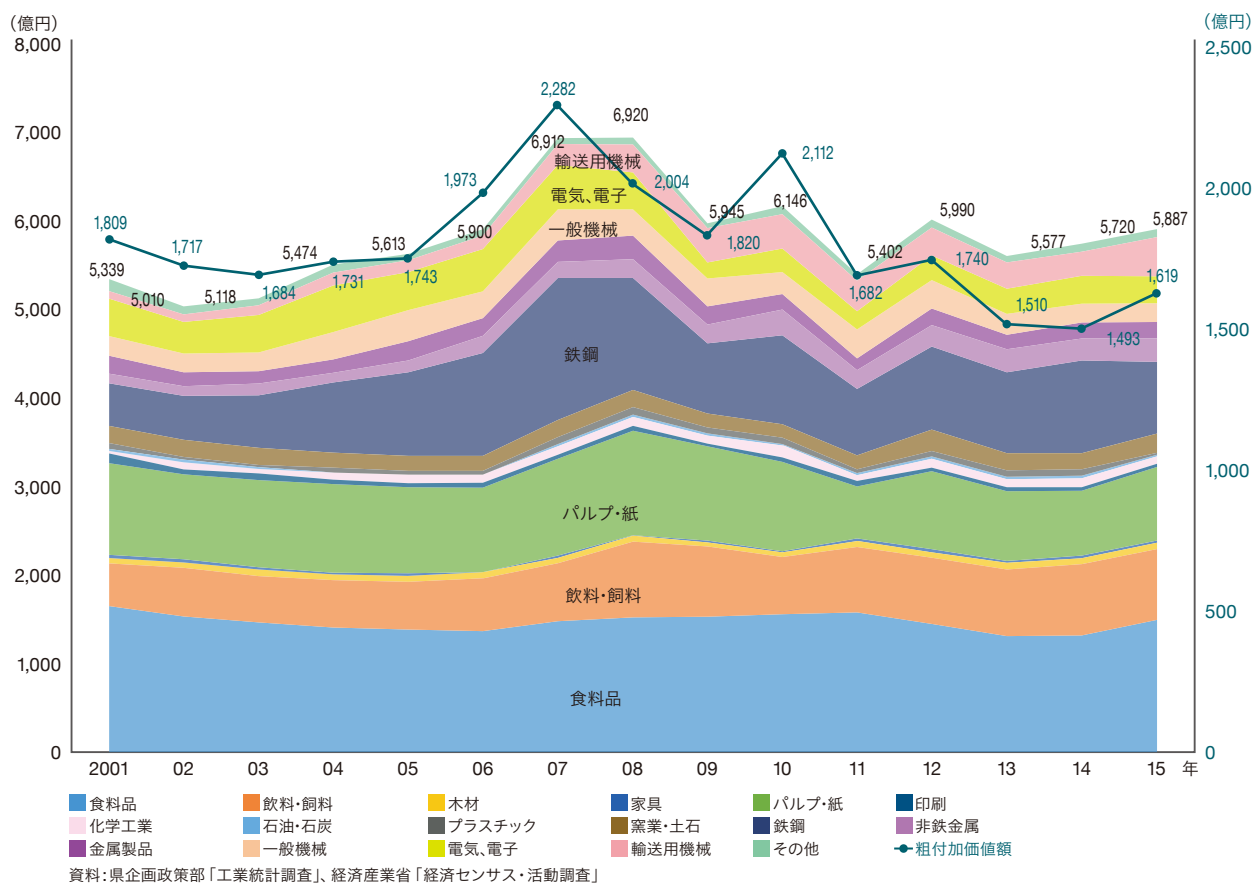
図3 地域の就業人口構成



製造品出荷額等

製造品出荷額等は、2008(平成20)年9月のリーマンショックによる急激な経済情勢の変化、2011(平成23)年3月に発生した東日本大震災により落ち込んだ後、回復基調にはありますが、粗付加価値額は、まだ震災以前の水準まで回復していない状況です。(図4)

図4 三八地域の産業別製造品出荷額等、粗付加価値額の推移



農業就業人口の推移

2015(平成27)年の農家戸数は、8,212戸で県全体の約18.3%を占めています。2000(平成12)年からの15年間で3,330戸減少していますが、減少率は県全体より幾分緩やかになっています。

農業就業人口も15年間で7,776人減少し、特に65歳未満の減少が著しく、今後も高齢化の進行が見込まれます。(表3)

表3 農業就業人口の推移

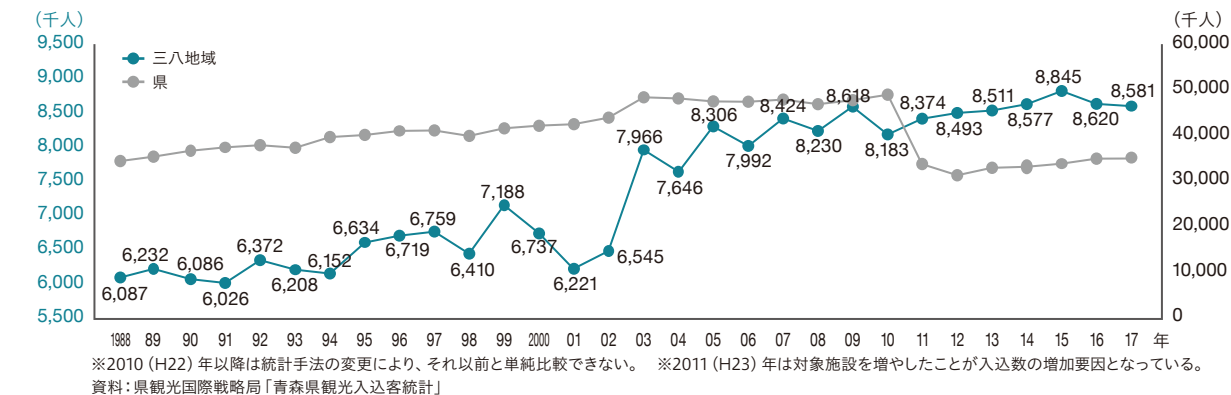
年次	農家戸数(人)		農業就業人口(人)		農業就業者の年齢構成(%)		
	県	三八地域	県	三八地域	15~39歳	40~64歳	65歳以上
2000(平成12)年	70,301	11,542	109,550	18,245	11.8%	42.2%	45.9%
2005(平成17)年	61,644	10,546	96,794	15,810	12.9%	44.6%	42.5%
2010(平成22)年	54,210	9,598	80,483	13,059	10.0%	38.7%	51.3%
2015(平成27)年	44,781	8,212	64,746	10,469	10.5%	40.9%	48.6%
	▲36.3%	▲28.9%	▲40.9%	▲42.6%	7.2%	37.9%	54.9%
					8.5%	40.1%	51.3%
					7.2%	35.0%	57.8%
					8.0%	37.5%	54.5%

資料:農林水産省「世界農林業センサス」及び「農林業センサス」

観光入込客数

観光入込客数の推移を見ると、2002(平成14)年12月の東北新幹線八戸駅開業を契機として急激に増加しました。東日本大震災の影響により一時的に落ち込んだものの、現在は上昇傾向にあります。(図5)

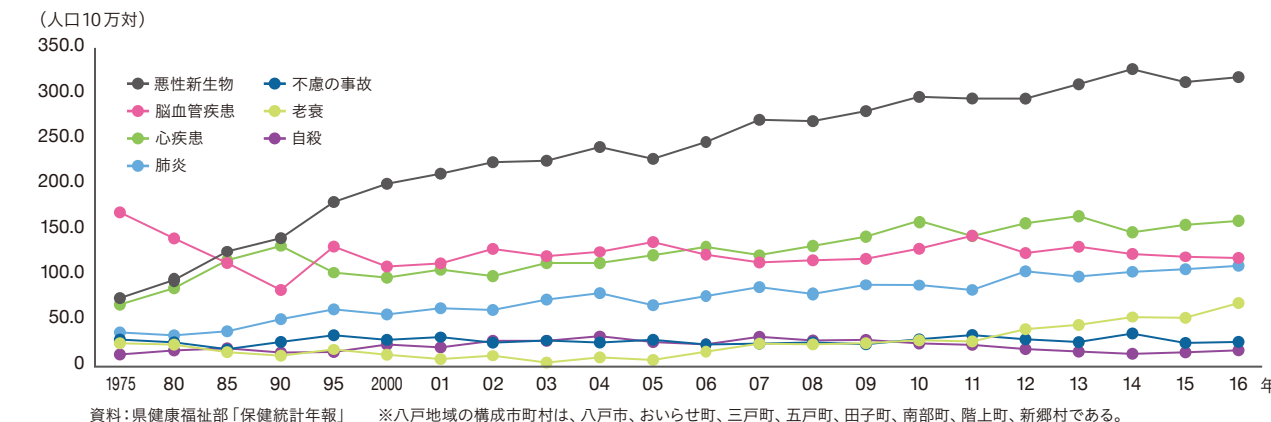
図5 三八地域の観光入込客数の推移



主要死因死亡率の年次推移

八戸地域の主な死因の順位は、2012(平成24)年以降、第1位は悪性新生物、第2位は心疾患、第3位は脳血管疾患で、全死因に占める三大死因の割合は約5割を占めています。(図6)

図6 八戸地域主要死因死亡率の推移



# 3. 今後5年間の取組の基本方針と主な取組

## 1 ものづくり産業の活性化とエネルギー関連産業の振興

産業基盤、製造業の集積と高い技術力、教育・研究機関や産業支援機関の充実、インフラが整備された国際物流拠点といったポテンシャルを生かし、産学官金連携など地域が一体となって、地域企業の経営力強化や、企業間連携、新たな成長分野への参入といった三八地域ものづくり産業の活性化に向けた取組を推進します。

また、地域特性を生かした多様な再生可能エネルギーの高度利用や新規企業の参入など、エネルギー分野での先進的取組を生かした関連ビジネスを推進します。

### 主な取組

- ① 地域企業のマーケティング力向上や企業間の連携等による受注機会の拡大及び海外を含む地域外への販路開拓の促進
- ② 新商品・新技術の開発、地域の技術や資源を生かした新たな成長分野への参入促進
- ③ AIやIoTの活用などによる地域企業の生産性向上の取組の促進
- ④ 地域経済の活性化を支えるものづくり関係者などによるネットワーク形成と一体的取組の推進
- ⑤ 地域産業を担う多彩な人財の確保・育成・定着と、ものづくり分野などの創業・起業の促進
- ⑥ 太陽光、バイオマスなど多様な再生可能エネルギーの導入促進や熱エネルギー等の利活用、エネルギーの地産地消の取組の推進
- ⑦ 高等教育機関との連携によるエネルギー分野における人財の育成

## 2 農林水産資源の高付加価値化と人財・経営体の育成

安全・安心、高品質で多彩な農林水産物の生産を基盤として、食品製造業の集積の高さを生かした農商工連携などにより農林水産資源の付加価値を高めるとともに、農山漁村の維持・発展に貢献する人財・経営体の育成、確保を推進します。

### 主な取組

- ① 安全・安心な農林水産物の安定生産
- ② 磯根資源の育成と資源管理型漁業の推進
- ③ 豊かな食文化を生かした地産地消の推進
- ④ 農林水産物の高品質化やICTなどを活用した積極的な情報発信などによるブランド力の向上と販売力の強化
- ⑤ 農林水産資源の高付加価値化と農商工等の連携による6次産業化の取組拡大
- ⑥ 農山漁村の社会を支える人財・地域経営体など担い手の育成

## 3 広域観光の更なる推進

DMOの設立を契機とする競争力の高い魅力ある観光地域づくりや行ってみたくなるエリアのイメージ確立、国内外からの誘客強化に取り組み、交流人口や観光消費額の拡大を推進します。

### 主な取組

- ① DMOの設立による広域観光推進体制の充実と連携の強化
- ② マーケットと三八地域の観光資源の特徴を踏まえた独自の価値を体験できる観光の推進
- ③ ターゲットに届く情報発信の強化
- ④ インバウンド対応やホスピタリティの向上、観光施設・観光案内・交通アクセスなどの受入態勢の充実
- ⑤ グリーン・ツーリズムやブルー・ツーリズム※、産業観光、豊かな食を生かした観光、地域の暮らしや文化、風土に密着したテーマ観光などによる国内外からの誘客促進

## 4 健康、長寿で、生き生きと安心して暮らせる地域づくり

地域住民一人ひとりのヘルスリテラシー(健やか力)向上と生活習慣病予防に向けた環境づくりを推進し、壮年期死亡の減少と健康寿命の延伸をめざします。

また、保健・医療・福祉の体制の充実や生活機能の維持・確保、多様な担い手の確保・育成に取り組むことにより、「青森県型地域共生社会」づくりを進めます。

### 主な取組

- ① 住民の健康的な生活習慣の定着に向けた普及啓発と環境づくりの推進
- ② 多様な担い手による介護予防や生活支援サービス等の提供体制整備の促進
- ③ 「青森県型地域共生社会」の実現に向けた多様な担い手の確保・育成と生活機能の維持・確保に向けた仕組みづくり
- ④ 地域づくりを担う人財の育成・活躍の促進や地域住民が互いに支え合う地域づくりの推進

※ブルー・ツーリズム：漁村などに滞在し、漁業体験などを通じて地域の魅力にふれることを目的とした旅行スタイルのことです。